

近代の衝撃と東アジアの漢詩 一月性・黄遵憲・魏清徳（仮題）

ゲスト講師 趙 偵 宇 さん 南山大学講師、植民地期の台湾文学・
明治期の日中漢文学

ホスト著者 愛甲弘志 さん 『月性を読む』編著者、京都女子大学
名誉教授、中国文学

～ 企画趣旨 ～

東アジアの漢詩世界は、いかに近代の衝撃に立ち向かったのか。漢字文化圏における日本・中国・台湾の代表的漢詩人である月性・黄遵憲・魏清徳を中心に、このテーマを比較の方法によって考察し、月性の漢詩における思想・表現の特徴を捉える試み。

2024(令和6)年5月12日(日)午後、妙円寺(1面参照)で開催の予定です。詳細は追ってお知らせします。

愛甲弘志・上田純子「編著」
月性を読む―幕末「海防僧」の漢詩と建白書

企画・制作 僧月性顕彰会
四六判・カバー装・344頁
定価2750円(税込) 右文書院刊

藩政改革と攘夷決戦を生身(なまみ)で発信した真宗僧 月性(1817-1888)の、精選漢詩および全建白書の原漢文に、書き下し文・現代語訳を対照して詳しい注を施す。中高生から読める読解本。

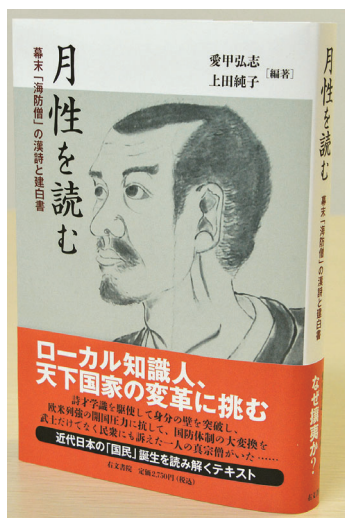
幕末史の重要史料である月性建白書3編の全文が本書で初めて活字化され、読みやすい現代語に訳された。月性の思想と感性を、一字一句から読み解く。

藩政をどう立て直すのか、なぜ攘夷なのか――身分の壁を越え、命を賭して直言された数々の献策・提言で体制の疲弊を打ち、欧米列強の襲来に対抗する地域民兵団の編成を提起する。幕末が分かり、維新が見える歴史ドキュメント。

生まれつきの真宗僧、瀬戸内海沿岸住民、忠良なる長州藩領民、漢学徒、漢詩人、編集者、村塾主宰者、兵法家、攘夷論客、説法僧、詩吟演武家、酒豪等々、多彩な行動を繰り広げる月性。その内面の沸騰や沈潜、熱狂や清狂、諧謔や純真を余すところなく伝える漢詩群は、自覚的な詩人・知識人精神の類まれなモニユメント。

鎖国から開国へ、領民から国民へ、身分から個人へ、伝統墨守から文明開化へと、
日本を襲ったグローバルな大転換のなかで、方外一己の知識人・月性に何が起ったのか？

幕末維新を地場から捉え直す、恰好の一冊。



『月性の寺』妙円寺境内 月性展示館のご案内

月性自筆「内海杞憂」草稿、林道一画「月性剣舞の図」など、重要史料・文化財
およそ600点を展示・保存しています。ご来館をお待ちしております。

開館：午前9時～午後4時 月曜休館(国民の祝祭日等は開館) 入館料：200円 高校生以下無料



右文書院